

様式第二号の十三(第八条の十七の二関係)

(第1面)

特別管理産業廃棄物処理計画書

令和6年8月6日

岐阜県知事 殿

提出者

住 所 岐阜県大垣市木戸町1122番地

氏 名 イビデンエンジニアリング株式会社

代表取締役社長 児玉幸三

電話番号 0584-75-2301

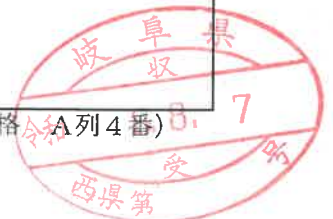
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	イビデンエンジニアリング株式会社
事業場の所在地	岐阜県大垣市木戸町1122番地
計画期間	令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	06 総合工事業、26 生産用機械器具製造業、88 廃棄物処理業、74 技術サービス業（他に分類されないもの）																				
② 事業の規模	売上高 204億円																				
③ 従業員数	338名																				
④ 特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	<table><tr><td>汚泥</td><td>⇒</td><td>焼却</td><td>⇒</td><td>焼却灰を再生利用</td></tr><tr><td>廃油</td><td>⇒</td><td>焼却</td><td></td><td></td></tr><tr><td>廃酸</td><td>⇒</td><td>中和</td><td></td><td></td></tr><tr><td>廃アルカリ</td><td>⇒</td><td>中和(自社処理)</td><td>⇒</td><td>下水放流</td></tr></table>	汚泥	⇒	焼却	⇒	焼却灰を再生利用	廃油	⇒	焼却			廃酸	⇒	中和			廃アルカリ	⇒	中和(自社処理)	⇒	下水放流
汚泥	⇒	焼却	⇒	焼却灰を再生利用																	
廃油	⇒	焼却																			
廃酸	⇒	中和																			
廃アルカリ	⇒	中和(自社処理)	⇒	下水放流																	

(日本産業規格A列4番)



(第2面)

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

事業所

代表取締役社長

↓

事業部長

↓

廃棄物管理者

↓

現場管理者

↓

現場担当者

特別管理産業廃棄物
管理責任者

会議体

- ・安全衛生委員会
- ・コンプライアンス委員会
- ・MS委員会

内部監査

- ・マニフェストの運用状況を監査
- ・処分事業者の適正評価

外部審査

- ・第三者機関による運用審査

特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	排出量	「別紙1」の通り	t
	(これまでに実施した取組) ①中和処理に使用する薬液、脱水条件を適正にして、発生汚泥量を減らす。		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	排出量	「別紙1」の通り	t
	(今後実施する予定の取組) 継続		

特別管理産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 産業廃棄物と混同しない、確実に分別する。関係者に周知・教育する。
②計画	(今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 継続

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った特別管理産業廃棄物の量	「別紙1」の通り	t
	(これまでに実施した取組) 特になし		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う特別管理産業廃棄物の量	「別紙1」の通り	t
	(今後実施する予定の取組) 特になし		

自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量	「別紙1」の通り	t
	自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) 特になし		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う特別管理産業廃棄物の量	「別紙1」の通り	t
	自ら中間処理により減量する特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 特になし		

(第4面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項

①現状	【前年度（令和5年度）実績】	
	特別管理産業廃棄物の種類	
	自ら埋立処分を行なった特別管理産業廃棄物の量	「別紙1」の通り t
	(これまでに実施した取組) 特になし	
②計画	【目標】	
	特別管理産業廃棄物の種類	
	自ら埋立処分を行う特別管理産業廃棄物の量	「別紙1」の通り t
	(今後実施する予定の取組) 特になし	

特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和5年度）実績】	
	特別管理産業廃棄物の種類	「別紙1」の通り
	全処理委託量	t t
	優良認定処理業者への処理委託量	t t
	再生利用業者への処理委託量	t t
	認定熱回収業者への処理委託量	t t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t t
	(これまでに実施した取組) 特になし	

(第5面)

②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量	「別紙1」の通り t	
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 特になし		
電子情報処理組織の使用 に関する事項	【前年度（令和5年度）実績】		
	特 別 管 理 産 業 廃 棄 物 排 出 量 (ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。)	0 t	
	(今後実施する予定の取組等)		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令（以下「令」という。）第6条の14第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生量（ポリ塩化ビフェニル廃棄物（令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。）を除く。）を記入すること。その量が50トン以上の者にあつては、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組等（情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の31の4に該当するときは、その旨及び理由を含む。）について記入すること。
- 8 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 9 ※欄は記入しないこと。

現状:前年度(令和5年度)	実績
計画:今年度(令和6年度)	計画

単位:トン/年

産業廃棄物の種類	排出抑制に関する事項		自ら行う再生利用に関する事項		自ら行う中間処理に関する事項		自ら行う埋立処分等に関する事項		処理委託に関する事項								単位:トン/年				
	排出量		自ら再生利用を行う産業廃棄物の量		自ら熱回収を行う産業廃棄物の量		自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量		自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量		優良認定処理業者への処理委託量		再生利用業者への処理委託量		45,510			認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量			
	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画		現状	計画		
燃え殻																					
汚泥	18	18										18	18	18	18	18	18				
廃油	0.5	0.5										0.5	0.5	0.5	0.5		0.5		0.5		
廃酸	45	45										45	45	45	45						
廃アルカリ	1,030	1,030					1,030	1,030													
廃プラスチック類																					
紙くず																					
木くず																					
繊維くず																					
動植物性残さ																					
動物系固形不要物																					
ゴムくず																					
金属くず																					
ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず																					
鉛さい																					
がれき類																					
動物のふん尿																					
動物の死体																					
ばいじん																					
合計	1,094	1,094	0	0	0	0	1,030	1,030	0	0	0	64	64	64	64	0	0	18	18	0.5	0.5